

①目的

②目標

③現状の
取組の
整理

全ての柏市民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現

定量目標	目指すべき姿
<p>＜健康寿命の延伸＞</p> <p>【健康寿命の定義】</p> <p>①日常生活に制限のない期間</p> <p>②自分が健康であると自覚している期間</p> <p>③日常生活動作が自立している期間</p> <p>⇒市町村は、③を採用</p> <p>＜主観的健康感の向上＞</p>	<p>・市民の健康ニーズや価値観の多様化を踏まえ、市民にも分かりやすいビジョン（案）</p> <p>・年齢を問わず、生涯を通じ、地域の中で心身の健康を土台に自分らしく輝き、自己実現できるまち</p> <p>・健康格差の縮小により達成を目指す</p>

	カテゴリ	現在の市の施策例
0次 予防	自然に健康になれる生活・社会環境づくり	・ウォーカブルなまちづくり(公園・歩道の整備等) ・柏の葉スマートシティ
1次 予防	良好な生活習慣の形成 疾病予防・フレイル予防	・健康教育(食事・運動等) ・柏ノースモッ子作戦 ・ウォーキング推進事業 ・予防接種 ・介護予防教室 フレイルチェック
2次 予防	早期発見・早期治療	・がん検診 ・乳幼児健診 ・特定健診, 特定保健指導
3次 予防	重症化予防・QOL向上	・糖尿病性腎症重症化予防プログラム ・認知症カフェ

機能や効果に着目した事業の再整理, 棚卸が必要

柏市の今後の健康づくり施策基本コンセプト（案） ②

④現状の
評価

取組の成果・強み

- ・健康寿命は県内でもトップレベル
- ・後期高齢者が日本一転ばないまち
⇒過去の健康づくりの取組が10年後に開花
(ウォーキング人口増, 地域の支えあいの普及等)
- ・活発な地域活動, 産学官医連携の基盤

今後の懸念

- ・単身世帯の増加
- ・40代～50代の健康状態の悪化・二極化
- ・こどもの生活習慣の二極化
- ・地域ごとの健康格差の拡大
- ・地域活動の衰え(担い手の高齢化, 関心低下等)

⑤課題

柏市の今の健康寿命の水準は、2040年には維持できない可能性

若年層の転入増

新型コロナ感染流行に伴う健康意識の高まり

⑥今後の
対応

若年世代を
中心とした
「未病」対策
の強化

① 市を挙げた取組の発信 ※ビジョンや宣言の発表等 (Health in All Policies; ”つづくをつなぐ”)

② 強みを生かし、課題に対応した新たな取組の検討 ※「誰一人取り残さない」「実効的な」取組を目指す

カテゴリ		取組の強化の方向性	
0次	自然に健康になれる生活・社会環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に楽しく健康になれる仕掛けづくり ・地域全体で無関心層へ働きかけ(新たなつながり) 	PIRなJICTの活用 健康になれる環境や行動 政策効果の検証に基づく 施策のブラッシュアップ ↓柏の財産を活用した 産学官医連携
1次	良好な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯単位で子どもたちへの一貫したアプローチ (学校保健, 児童福祉, ひとり親支援等との連携等) 	
2次	疾病予防・フレイル予防 早期発見・早期治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット層の明確化(30代～50代)・実効性向上 ・職域との連携(健康経営の推進等) ※柏市役所が職域として率先して取り組む ・プッシュ型支援(ナッジ等も活用) 	
3次	重症化予防・QOL向上		